

令和3年度 えびの市立上江小中学校 小学部 「学校運営協議会評価書」

学校教育目標 グローバルな視野をもち、主体的に活動するたくましい上江っ子の育成
めざす児童生徒像 ○ 礼儀正しく、元気のある子 ○ 目標もって、自ら学ぶ子 ○ 責任をもって、確実にやり遂げる子

項目	重点目標と主な達成手段	具体的な取組	成果と課題（改善策等）
学力の向上	(1) 個に応じた指導を充実させ、指導方法の工夫や時間の確保を行うとともに、系統性・継続性のある教育課程の実施・充実を図る。 (2) 研修を通して職員の授業改善を図る。 (3) 小中一貫の特色を生かした望ましい学習習慣や家庭学習の定着を図る。	○ 県および市、教育委員会と連携して、指導力向上のための学校支援訪問を年3回実施し、個々の授業力向上を目指す。 ○ 全職員が授業公開を行い、他の教員からのアドバイスを受けながら授業改善に努める。 ○ 小中で系統性・継続性のある教育課程の実施、充実を図る。また、小中教員による乗り入れ授業を実施する。 ・中学部の教員が小学5・6年生への家庭科の指導 ・中学部の教員が小学1・2年生への体育科の指導 ○ ALTを交えた英語活動・外国語活動・外国語科での学習を通して、コミュニケーション能力の素地をつくり、豊かな人間性を身に付けた児童の育成を目指す。また、中学部における外国語学習への抵抗を減らす。	○ 6月と11月の2回学校支援訪問を行い、フィードバックを行うことで、授業改善につながることことができた。3回目の1月の学校支援訪問については、実施できなかったが教員相互に参観し、授業改善に向けて協議を行うことができた。 ○ 授業公開については、支援訪問だけでなく、校種間の教員同士の授業参観も行い、授業改善につなげることができた。 ○ 乗り入れ授業を通して、小中の教員間で協議を行うことができ、児童への理解を深めることができた。 ○ ALTとの対話の機会を増やすことで児童のコミュニケーション能力の育成を図ることができた。
豊かな心の育成	(1) 読書活動の推進のための取組を充実する。 (2) 元気なあいさつを基本に、主体性のある児童会の活動を促し、望ましい人間関係の醸成を図る。（ピア・サポート推進校としての積極的な取組） (3) 小中一貫の特色を生かした積極的な生徒指導に努める。	○ 読書月間、お話玉手箱等、子どもたちが興味・関心をもてる取組を積極的に行い、読書に親しむ環境を整える。 ○ 児童会・生徒会が連携し、「地域貢献活動」について話し合いを行い、地域の施設の清掃など、児童が主体的に取り組む活動を計画する。 ○ 子どもたちの健やかな成長のために、関係機関と連携しながら小中学校の職員の情報交換を密にし、よりよい指導を行っていく。 ○ 「ピア・サポート活動」に関する研修を行い、各学級での実践を通して、児童同士が相互に思いやり、助け合い、支え合う人間関係を育んでいく。	○ 9月より読み聞かせの活動を行うことができるようになり、児童の読書に対する意欲・関心を高めることができた。 ○ 児童会・生徒会での話し合い活動を行い、上江駅・通学路・旧上江中のゴミ拾いや除草を小中の異学年で2月下旬と3月中旬に実施することになった。 ○ 通常学級の支援の必要な児童についてエリアコーディネーターによるアドバイスを得ることで児童への支援に生かすことができた。 ○ ピアサポートに係る2回の研修を行い、各学級でも2回実践を行うことができた。
体力の向上	(1) 小中一貫の特色を生かした体力向上プランの実施及び食育の推進を図る。 (2) 立腰指導の徹底や運動の推奨を通して体力の向上を図る。	○ 運動する子としない子の二極化が見られたため、体力向上プランをもとに体育学習の更なる充実を図り、運動の楽しさを味わわせるようにする。また、合同運動会、合同ロードレース大会を実施することで、競技に向かう姿勢、練習、準備、片付けなどの取組等について小学生に学ぶ機会を設定する。 ○ 学級での指導を通して、正しい姿勢を意識させるとともに、年間を通して食育指導を行うことで成長期における栄養の大切さについて理解させる。	○ 準備運動やサーキットトレーニングを授業の中に取り入れることで児童の運動への意識を高めることができた。感染予防のため、屋外での遊びについては限定的となり、十分とはいえないかった。 ○ 集会を通して、姿勢の大切さについて指導することができた。どの学級も授業のはじめや終わりについて、姿勢を意識する時間をもつことができた。
の地域成に貢献する人材	(1)「えびの学」を中心に、体験活動を積極的に取り入れることで、地域に対する理解や愛情をもたらすとともに、系統的なキャリア教育の推進を図る。 (2) 積極的な地域・関係機関との連携や外部人材の活用により、地域に開かれた教育課程の実現を図る。	○ 地域学校協働活動や、関係機関の外部講師を活用し、学習支援のサポートを依頼することで、学習をより効果的・効率的に行う。 ○ 学級通信、学校便りの定期的な発行、ホームページの随時更新など、学校での様子を積極的に公開する。緊急を要する場合は、「しらはとメール」で職員・保護者に情報発信する。 ○ 地域にある公共施設等へ実際に見学に行き、その施設が地域社会へ果たす役割や思い、願い等について気付かせる。	○ 小5と中1の田植えや稻刈りについては、西上江自治会の協力により実施することができた。また、遠隔授業を活用して、放送局の仕事（5年）を学び、地域学校協同活動を活用して、地層見学、史跡巡り（6年）を行い、河川事務所と河川調査（4年）を実施した。 ○ 「学校だより」を定期的に発行し、学校の様子を伝えることで、保護者からも好評であった。 ○ 宮日新聞への掲載作品は総数18点となり、情報発信することができた。